

昭和28年頃の

今津屋橋西側の風景

写真提供・粉川誠三さん(国分寺)



昭和26年8月ごろの吉井川河原の風景です。写真右奥、千鳥破風のある大きな建物は大黒屋旅館。当時、津山の特産物だった和紙やガラ紡織物などを買い付けに来た商人の常宿として繁盛したそうです。また、春には花見客の宿としてもにぎわったといひます。大黒屋の4軒左、軒に看板を掲げているのはミツクラ理容店。そこから1軒挟んだ左側の建物も旅館であり、船頭町と吹屋町だけでも6軒の旅館が吉井川

北岸沿いに店を構えていました。

吉井川の河原は、子どもたちにとって格好の遊び場でもあったようです。よく見ると川の中で水遊びをする姿が見えます。川面に響く子どもたちの歓声は当時、夏の風物詩となっていたことでしょう。

手前の河原では馬が2頭、のんびりと草を食んでいます。昭和30年代までは、市内でも荷馬車が往來する姿が普通に見られたそうです。この馬も荷を曳いた後に、休息でもしているのでしょう。

現在では、子どもが川で遊ぶことは、できなくなりました。河川改修や道路改良などで、周辺に当時の面影を探すことも、難しくなりました。子どもたちの歓声を聞きながら、のんびりと草を食む馬を眺める。今では失われたのどかな風景がここには広がっていません。



現在の今津屋橋西側

このコーナーに掲載する懐かしい津山の写真を募集しています

問い合わせ先

〒708-0022  
津山市山下92  
津山郷土博物館  
☎22-4567

表紙について

端午の節句とこいのぼり  
加茂町成安

男の子の出世を願って飾られるこいのぼり。風を受けて全身をなびかせる「真鯉」は勇壮に見えます。その姿を背にはしゃぐ子。そして、お母さんは我が子の将来を真鯉にうつし、ほほ笑むのです。

つぶやき  
編集室



何をつぶやき編集室に書くこととするか。えーっと、あれは…却下。これは…却下。それは…ないよなー。ん、よく考えてみるとこの作業に1番時間が掛かっていないかい。やばい、どつぽにはまったか。抜け道はないのか。いい解決策は。…ということをやにして無事解決。(～)

この春から、持ち慣れない本格的なカメラを持つことになり、さらに原稿とにらめっこのバタバタな毎日。子どもの栄養管理と断捨離(身の回りの整理整頓)に取り組もうと思っていたのに…こんな私を温かく迎えてくれる家族に、感謝の気持ちでいっぱいです。(G)

満開の桜花も散り、山々の新緑が色を濃くしてくる時期になりました。草木の生命の息吹を感じられるこの季節がわたしは一番好きです。まさに『蒼いととき』。「この自然の力と勢いに負けない、強い気持ちを持たないといけない!」と思うこのごろです「がんばろう!日本」(修)

